

令和2年度事業報告

1. 令和2年度、理事会及び評議員会の開催状況について

(1) 第98回理事会

- 日 時 令和2年5月25日（月）14時50分～16時15分
- 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
- 議 案
 - 第1号議案 令和元年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和元年度決算（案）
 - 第3号議案 人事案件について
 - 第4号議案 令和2年度の財政状況について
 - 第5号議案 定時評議員会の招集について
- 報告事項
 - こどもの国における新型コロナウイルス感染防止について
 - その他

上記、5議案が審議され、承認されました。

(2) 第82回評議員会

- 日 時 令和2年6月15日（月）15時00分～16時10分
- 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
- 議 案
 - 第1号議案 令和元年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和元年度決算（案）
 - 第3号議案 役員人事について
- 報告事項
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について
 - 令和2年度の財政状況について
 - 事業資金の借り入れについて
 - 「こどもの国緊急事態宣言」について
 - その他

上記、3議案が審議され、承認されました。

(3) 第99回理事会

- 日 時 令和2年11月20日（金）10時25分～11時35分

- 会 場 こどもの国会議室
 - 報告事項
 - 令和2年度上半期事業報告について
 - 令和2年度収支状況について
 - 皇太子殿下御結婚記念館の大規模修繕について
 - 令和3年度施設整備予算要求について
 - その他
- 審議議案は無く、報告事項のみ行われました。

(4) 第100回理事会（書面開催）

- 文書発出 令和2年12月29日（火）付
- 理事会の決議があったものとみなされた日
 - 令和3年1月22日（金）
- 議 案
 - 第1号議案 令和2年度補正予算及び事業計画書（変更）（案）
 （議案の概要）新型コロナウイルス感染拡大による、こどもの国臨時閉園等に伴う、事業計画の変更及び補正予算について上記、1議案について書面にて審議され、承認されました。

(5) 第101回理事会

- 日 時 令和3年3月23日（火）9時52分～11時00分
 - 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
 - 議 案
 - 第1号議案 令和3年度事業計画（案）
 - 第2号議案 令和3年度予算（案）
 - 第3号議案 経理規程の改正（案）
 - 第4号議案 人事案件について
 - 報告事項
 - こどもの国のコロナ禍における運営状況について
 - 令和3年度施設整備予算（案）の概要について
 - クラウドファンディングの実施状況について
 - 令和2年度における運営資金の借り入れについて
 - 平成記念館の改修工事について
 - その他
- 上記、4議案が審議され、承認されました。

2. 入園者の動向

(1) 年間入園者

令和2年度の有料入園者数の状況は、新型コロナウイルスによる感染拡大防止のための休園等の措置により 541,370 人と前年度から 313,369 人の減となりました。

(2) 半期ごとの状況

上半期の入園者数は約162千人で前年度比約324千人の減でした。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令(4/7)に伴い、4月8日～5月31日まで休園し、6月からは再開したものの、6月中は平日のみの開園とし、7月以降、徐々に元の状態での営業に近づけることとなりました。7月は長梅雨(梅雨明けは8/1)となりましたが、自粛疲れからか、予想していたよりも多くの入園者がありました。8月に入ると猛暑日が続く、プール営業も中止したことから、前年度比約22千人の減となりました。9月になり、やっと団体の入園者も増え始めました。

下半期の入園者数は約380千人と前年度比約10千人の増。10月は例年台風による影響で1～2日休園となりますが、本年度は台風の影響がなく、11月の気温も穏やかで、GOTOキャンペーンでの外出ムードの後押しもあったのか、10月11月の入園者数は、前年度比約33千人の大幅増となりました。しかしながら、徐々にコロナウイルス感染が再拡大し、1月8日から3月21日までの間、緊急事態宣言(2回目)が発令され、1月はスケート営業の中止もあり、前年度比約19千人の減となりました。入園者の内訳を見ると、前年度下半期比で、学校等の団体入園者数は1割強程度に減少しましたが、個人入園者数は1.6倍程度増加しております。

3. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」(昭和55年法律第19号)第1条第3項に掲げる事業として、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するための対策を講じながら、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行いました。

(1) 自然と親しむをコンセプトに来園促進

「ほだ木にシイタケ菌の駒打ち」、「ジャガイモ掘り」、「枝豆収穫」、「サ

ツマイモ掘り」の自然体験イベントを実施しました。また、イベントに合わせ、畑で育てたタマネギを収穫し、販売を行いました。

この他、子どもたちと自然との触れ合いの機会を充実させるため、「ザリガニ釣り大会」、「虫とりをしよう」、「夏休み昆虫教室」、「セミの羽化観察」、「セミ取り」、「セミのぬけがら調査」、「バッタ観察会」、「木の実観察会」、「冬の虫の観察会」、「冬の野鳥観察会」など、自然と生き物の生態を感じてもらおう四季折々のイベントを開催しました。

一方、密集・密接になる可能性の高い「ゆめゆめシティ」やマスクを外す頻度が多くなる「七夕そうめん流し」、「バウムクーヘンづくり」などの食に関わるイベントはコロナウイルス感染予防の観点から中止しました。

例年行っている、平日の集客増と高齢者の利用を促すための「ノルディックウォーキング」は、月1回のペースで継続して実施しております。

また、冬季の日曜日を中心に「たき火広場」を実施し、12月は焼きマシュマロ、焼き芋の販売を行いました。

既存の「フィールドゲーム」は、内容の強化を図り、秋、冬、春と実施し、「ビンゴゲーム」と共に、子どもたちの挑戦欲求を満たす遊びとして定着しています。

(2) グラウンド等の屋外施設

コロナ禍にも関わらず、土日祝のサッカー場、テニスコートは例年同様、予約の完売状態が続きました。

野外炊事場は客数に上限を設け運営するとともに、例年は休止している冬季も営業し、数多くとは言えないまでも一定数の新規の利用者を得ることが出来ました。

夏季を中心とした研修センター、キャンプ場は、感染防止対策の一環として営業を中止しました。

(3) 雪印こどもの国牧場との連携

例年「雪印こどもの国牧場」と連携し、「桜と羊のフェスティバル」などを開催していましたが、今年度は感染防止対策の観点から中止しました。

11月には「牧場まつり」を内容縮小により開催し、牧場ならではのイベントで楽しんでいただきました。

(4) 企業の助成や協賛、教育関係団体等の協力による事業の実施

① こどもの国秋まつり

朝日新聞社との共催により、9月の連休に「秋まつり」を開催しました。中央広場に於いて「かざぐるまづくり」、「ドラムサークル」、「フラフープ大会」などを行った他、本格的な大道芸のパフォーマンスショーや体験など、3日間を通して多彩なイベントを実施しました。

なお、「春まつり」は緊急事態宣言発令（4/7）により、園自体が休園となったため中止となりました。

② 青空コンサート

10月に開催予定だった吹奏楽コンテストは感染防止対策の観点から中止となりましたが、中央広場で野外演奏を行う「青空コンサート」を開催し、近隣の中学校の吹奏楽部員たちが日頃の成果を披露しました。演奏する機会が少ない中、参加した生徒たちの満足げな表情が印象的でした。

③ サンマを炭火で食べる会

第28回目を迎える「サンマを炭火で食べる会」については、感染防止対策をしっかりと行いながら、10月中旬の2日間で開催すべく準備を進めましたが、前年以上のサンマの不漁に見舞われ、女川・気仙沼の両漁港から開催に必要な量を確保できない、との連絡を受けて中止せざるを得ませんでした。

④ こどもの国サッカー大会・朝日新聞サッカースクール

11月に近隣のサッカー協会などの協力による第39回のサッカー大会を、また、朝日新聞社販売局の協力によるサッカースクールを開催し、多くのサッカー少年少女に楽しんでいただきました。

⑤ フォトコンテスト

雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、東急電鉄、横浜高速鉄道、ベルマーク財団の後援を得て、園内の自然と家族をテーマに作品を募集し、310点ほどの応募がありました。

作品募集期間中に長期の休園に入ったため、当初の「春のフォトコンテスト（3/20～4/30）」を「春と夏のフォトコンテスト（～8/31）」に変更して実施しました。

⑥ 児童福祉関連

例年、資生堂社会福祉事業財団の助成を得て、11月に「児童福祉施設駅伝大会」と「児童福祉施設女子駅伝大会」を実施していましたが、感染防止対策の観点から中止となりました。しかしながら、資生堂社会福祉事業財団のご厚意により、「缶バッジマシーナー式」の購入費用に助成していただき、代替事業として、多くの子どもたちに家族と一緒にオリジナル缶バッジづくりを楽しんでもらいました。

⑦ ジャンボカルタとり大会・どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」を例年通り実施しました。どんど焼き終了後の恒例イベントとして、焼き芋を子どもら300人に振る舞っていましたが、今年度は密集・密接の中での飲食が懸念されたため、焼き芋にはせずに生のさつま芋を配布しました。

(5) プール・スケートの代替事業

外部の業者に依頼して、プールの代替としての「水遊び」の場、スケートの代替としての「冬遊び」の場、加えて「秋遊び」の場を開設し、多くの子どもたちに利用していただきました。

4. 地域との連携強化

- ① 例年、近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、プール及びスケート場を無料開放していましたが、プール・スケート共に休業したため実施することができませんでした。
- ② 横浜市青葉区の広報紙「AOBA」に、こどもの国の告知枠をいただいております。その枠を有効に活用し、イベント情報に加え「今月の見どころ」も毎月紹介していただきました。
- ③ 各種イベントを通じて、鉄道会社などの企業や警察、消防などの公的機関及び地域団体等との連携に努めております。東急バス青葉台営業所と青葉警察署がコラボした交通安全教室を開催し、バスの死角体験や自転車シミュレーター体験、白バイ隊によるデモ走行などを行っていただきました。

なお、例年、青葉区役所で開催されている「区民まつり」は中止になり、園内で収穫した銀杏の販売は出来ませんでした。

5. 自然環境及び施設・整備

豊かな自然を維持するため、樹木の剪定、伐採等を計画的に進めているところですが、令和元年度に引きつづき、特にナラ枯れの被害が激しく、園内及び地域周辺の樹木への影響を防止するため、100本程度の樹木を伐採、焼却処分しました。しかしながら、ナラ枯れへの対応は、まだ不十分であり、来年度においてもその対応が必要となっております。

また、今年度は、国費の補助により、「皇太子殿下御結婚記念館」の改修工事を実施し、耐震補強等と併せ、大屋根下のホールを撤去し、屋根付きのフリースペースとして、多用途に活用いただくこととしております。

さらに、今回の工事を機に名称も「こどもの国平成記念館（皇太子明仁親王殿下御結婚記念館）」に改めることとしました。

6. 広報・PR活動の強化等

(1) 広報・PR活動の強化

東急や小田急などの企業と連携する「出前こどもの国」は、例年、駅前や商業施設に出店し、訪れた親子連れ等にかざぐるまの工作や缶バッジ作りを楽しんでもらうとともに、PRパンフレットとこども無料招待券をプレゼントするという園外広報活動です。今年度はコロナ禍で全く開催することが出来ませんでした。今後も商業施設等の態勢が正常化するまで再開は難しい状況です。

(2) デジタルツールの強化

ホームページの更新頻度を高め、内容についても充実を図ってきました。スマートフォンでの閲覧がとても多く、イベントカレンダーを始め、諸々のコンテンツを見やすく使いやすいように改良も行ってきました。

また、ツイッターの投稿頻度を高めることにより、タイムリーな情報の発信を行うとともに、問い合わせメールへの迅速かつ正確な返信に努めています。

さらに、事前予約を要するイベントの申込受付をインターネット経由で行えるシステムを導入したことで、これまでの電話や往復はがきでの申し込みと比べ、お客様と園側の作業量を大きく削減することが出来ました。

(3) こどもの国ニュースの発行・休刊

広報紙「こどもの国ニュース」は、タブロイド版カラー4ページで、学校が夏休みの8月以外の毎月（年11回）発行していましたが、コロナ禍での長期休園による大幅な収入減のため、5月号（通巻第600号）の発行後、6月号、7・8月合併号、9月号の3号の発行を中止しました。

10月より隔月発行で再開しましたが、発行に係る収支状況や園全体

の財政事情を踏まえ、年度末の2・3月合併号（通巻第603号）を以て休刊することとしました。今後はホームページの充実やSNSの更なる活用で情報発信を続けていくこととしています。

7. 新型コロナウイルスの感染拡大防止について

令和2年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、密室・密集・密接となる可能性の高いイベントの開催を自粛するとともに、屋内施設等の利用制限などを行っています。

令和2年4月、5月は政府の緊急事態宣言を受け、休園措置を余儀なくされ、同年6月は平日のみの開園、7月以降は徐々に元の状態に近づけながら運営してきましたが、プール、スケート場の中止、各種イベント等の中止・縮小など、感染防止対策の徹底を図る上で必要な対応をしつつ、運営を行いました。

8. クラウドファンディングの実施について

令和3年1月15日から5月14日までの期間において、こどもの国「豊かな緑の森」サステナブルプロジェクトと題し、「こどもたちの健やかな成長のために園内の貴重な緑を守り、未来へつなげること」を目的として、クラウドファンディングを実施しています。

いただいた支援金は、園内の美しい緑を守り続けるための費用に充てることとしています。

以上